

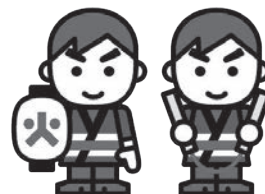
3月1日～7日は春季全国火災予防運動 「その火事を 防ぐあなたに 金メダル」

●春先は火災が起きやすいシーズンです！

春は、全国的に空気が乾燥しやすくなります。春一番のように強い南風が吹く季節でもあり、ひとたび火災が発生すると被害が大きくなりやすいので注意が必要です。

また春先は、農作業のために外で火を使う活動が始まる時季でもあります。気象条件をよく確認し、強風が予想される場合には、外で火を使う活動を行わないようにしましょう。

家庭ゴミ等を自宅の庭などで燃やす行為は
絶対に行わないようにしましょう！



【問い合わせ】ひたちなか・東海広域事務組合消防本部予防課(☎271-0735)

ふるさと歴史訪



自然を探して

久慈川水系の自然

久慈川周辺を散策していると、さまざまな自然の営みに出会うことができます。

晩秋のよく晴れた夕刻時、久慈川の土手を上流に向かって歩いてみると、前方に川の上空を旋回している大型の猛禽、ミサゴを発見しました。ミサゴは夕日に照らされた黄金色の目をこちらに一瞬振り向けたかと思うと、突然、川面に飛び込みました。おびただしい水飛沫を上げながら水中に半ば漬かり、羽を数回羽ばたかせ、もがきながらも強力な抑揚力で水面から飛び立つとともに、ミサゴは自分の体のほぼ半分ほどもある大きなボラを鋭い爪でつかんだまま、どこかへと飛び去っていきました(写真)。

その翌日、川の上流に沿って飛ぶサギの群れを目掛けて上空から急降下してくる黒い影を発見しました。確認すると、ハヤブサの成鳥でした。サギの群れは急旋回して辛うじてそれを回避し、ハヤブサは遠方へ飛び去っていきましました。

さらに上流へと歩を進めていくと、騒がしく泣き叫ぶサギの群れを発見しました。よく見ると、対岸近くの浅瀬に、遠方



【ボラをつかんで飛び立つミサゴ】

ながら大きさがほぼ同じ個体が2羽見えましました。どうやらオオタカがサギを水中に沈めているようで、サギは水中で羽をばたつかせもがき苦しんでいました。オオタカはサギの上ののしかかり、全体重をかけ、鋭い爪をサギの頭上に食い込ませていました。数分間その状態を保つと、サギは窒息絶命し動かなくなりました。その後、オオタカは鋭い爪をサギの頭部に引っ掛けたまま、両羽を水面に浮かせ、櫓をこぐように強引に対岸まで泳いでいき、そのまま一気に草むらの中に引き入れました。そして、辺りを警戒したかと思うと、サギの羽毛をくちばしで無造作にむしり取り、肉を食べ始めました。

このように、ミサゴ、ハヤブサ、オオタカは、同じ猛禽であっても獲物もそれぞれ異なる上、三者三様の狩りの仕方があり、上手にすみ分けをしているようでした。今回、久慈川水系の豊かな生態系に出会うことができたとともに、弱肉強食という厳しい面が存在していることに、改めて気付かされました。

前東海村自然調査会調査員

川上 仁司